

播磨臨海地域道路の検討経緯について

(第1回 播磨臨海地域道路連絡調整会議 資料)

姫路河川国道事務所
平成30年5月

播磨臨海地域道路の概要

- 播磨臨海地域道路は、神戸市から播磨臨海地域を連絡し、太子町に至る延長約50kmの道路。
- 平成25年12月から優先区間を絞り込むための検討を進め、平成28年5月に当面、都市計画と環境アセスメント手続きを進める区間(延長約35km)及び優先区間(3区間)を設定。
- 平成29年3月から延長約35kmの区間について計画段階評価を実施中。



【優先区間の絞り込み】

- ・平成25年12月
- ・平成26年 6月
- ・平成27年 3月～7月
- ・平成28年 5月

- 第1回近畿地方小委員会開催(地域・道路・交通の現状と課題)
- 第2回近畿地方小委員会開催(優先区間の絞り込みの観点)
- 地域への意見聴取
- 第3回近畿地方小委員会開催(優先区間の設定(案))

【計画段階評価】

- ・平成29年 3月
- ・平成29年12月～平成30年2月

- 第1回近畿地方小委員会開催(政策目標の設定)
- 第1回地域への意見聴取

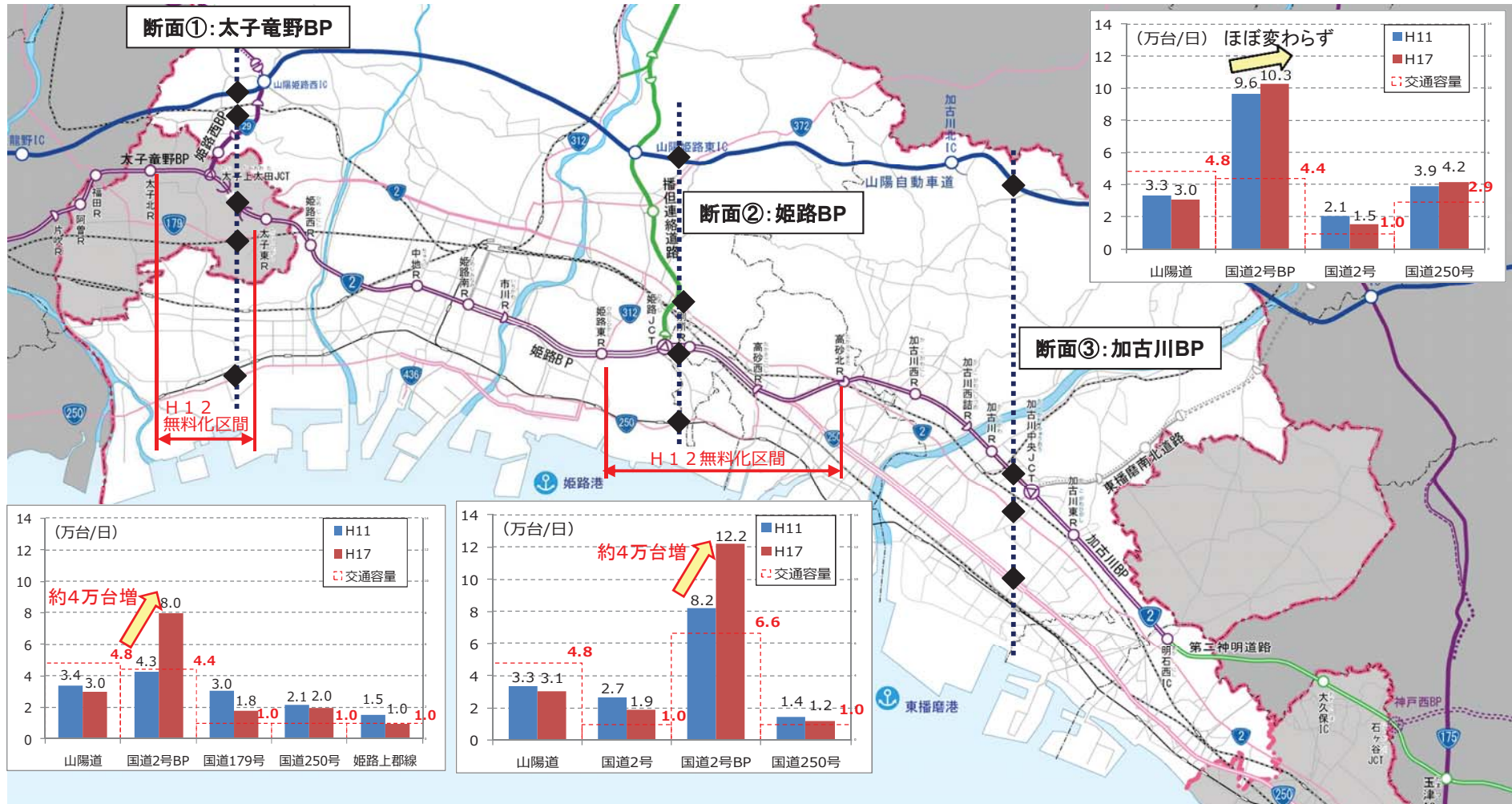
地域や道路交通の現状と課題（渋滞状況）

- 東西方向の国道2号BPを中心とした幹線道路は、**需要が大きく容量を大幅に超過**しており渋滞が著しく、国道2号BPを利用する交通は、姫路市中心部や加古川市中心部、また臨海部に発生集中が多い
- 国道2号BPや国道250号といった**東西の主要幹線と南北方向の臨海部アクセス道路のランプ、立体下交差点において特に渋滞が顕著**
- 国道2号BPへのアクセス道路は、**物流交通と生活交通が混在するため渋滞**



地域や道路交通の現状と課題 (交通転換による渋滞の悪化)

- 国道2号BPの姫路BP、太子竜野BPは平成12年度に無料化された
- その結果、並行する山陽自動車道や国道179号等から国道2号BPへの交通転換が発生し、姫路BP、太子竜野BPともに約4万台/日もの増加となった



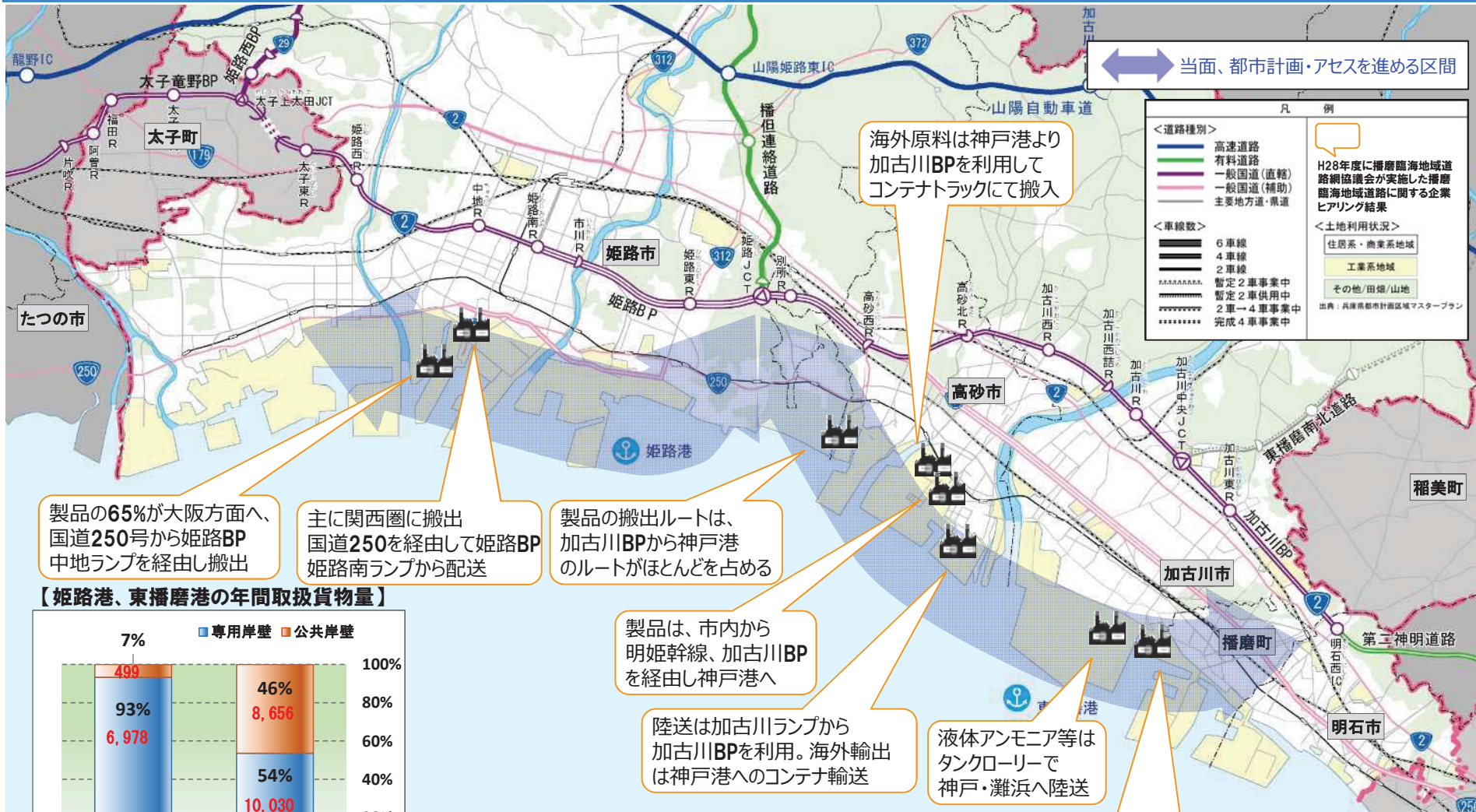
出典: H11年度・H17年度道路交通センサス

※交通容量は、道路構造令における1車線あたりの設計基準交通量を採用

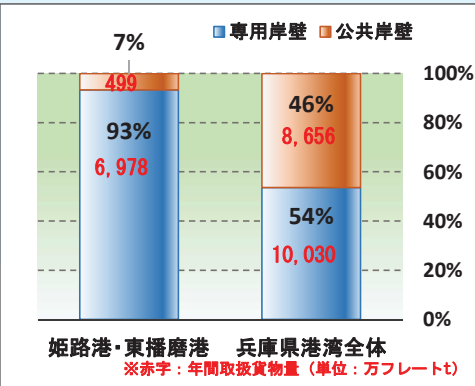
山陽自動車道: 第1種第2級(12,000台)、国道2号BP: 第1種第3級(11,000台) 国道2号・国道250号: 第4種第1級 2車線区間(9,600台)、多車線区間(7,200台)

地域や道路交通の現状と課題（臨海部の物流）

- 姫路港や東播磨港の取扱貨物の多くは、公共岸壁より臨海部立地企業の専用岸壁で荷卸しされている
- 臨海部の工業地域から播磨臨海地域外への物流は、**主に国道2号BPを利用し、神戸・大阪方面への輸送が多い**



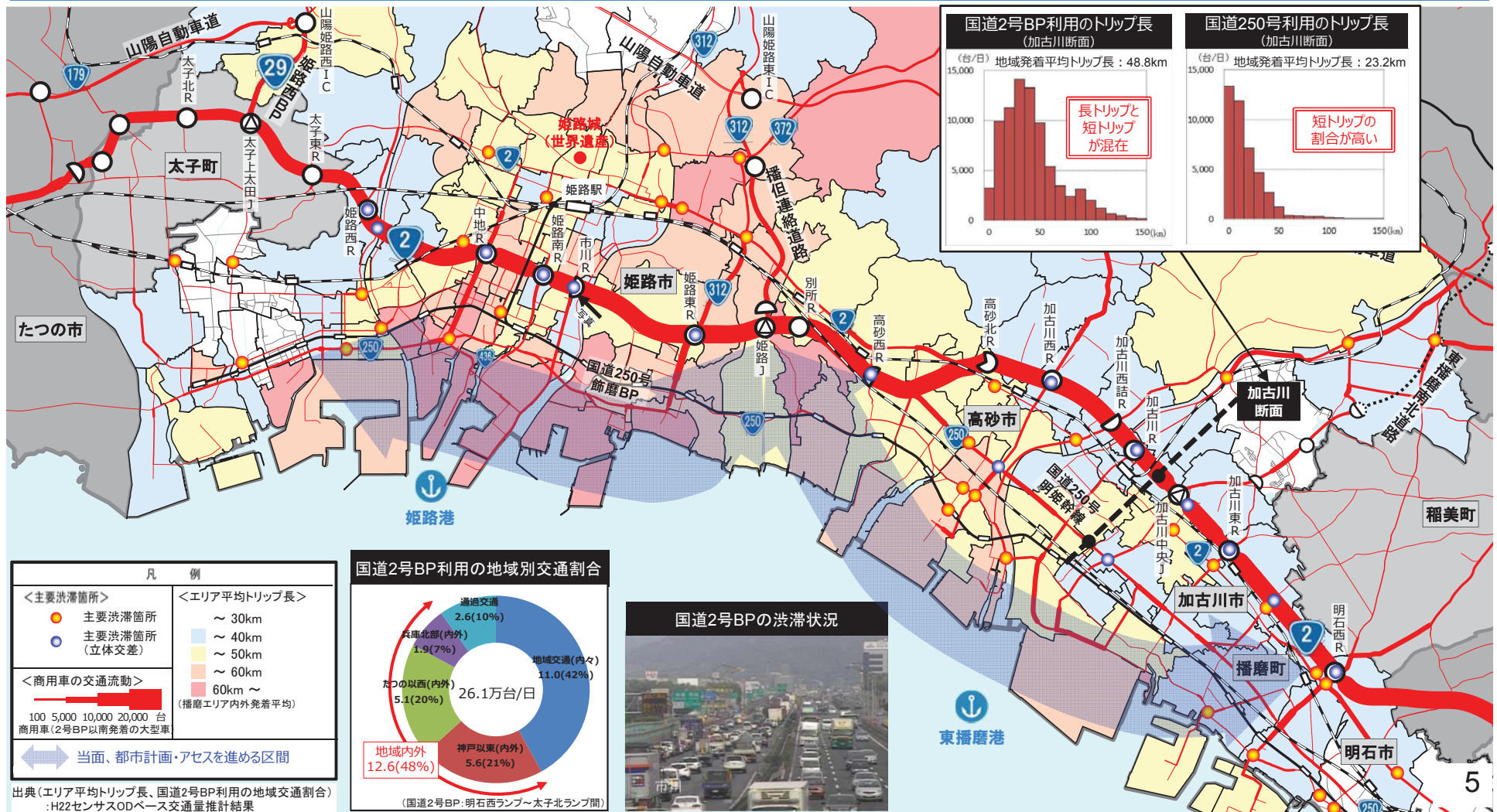
【姫路港、東播磨港の年間取扱貨物量】



出典：兵庫県港湾統計年報(平成27年)

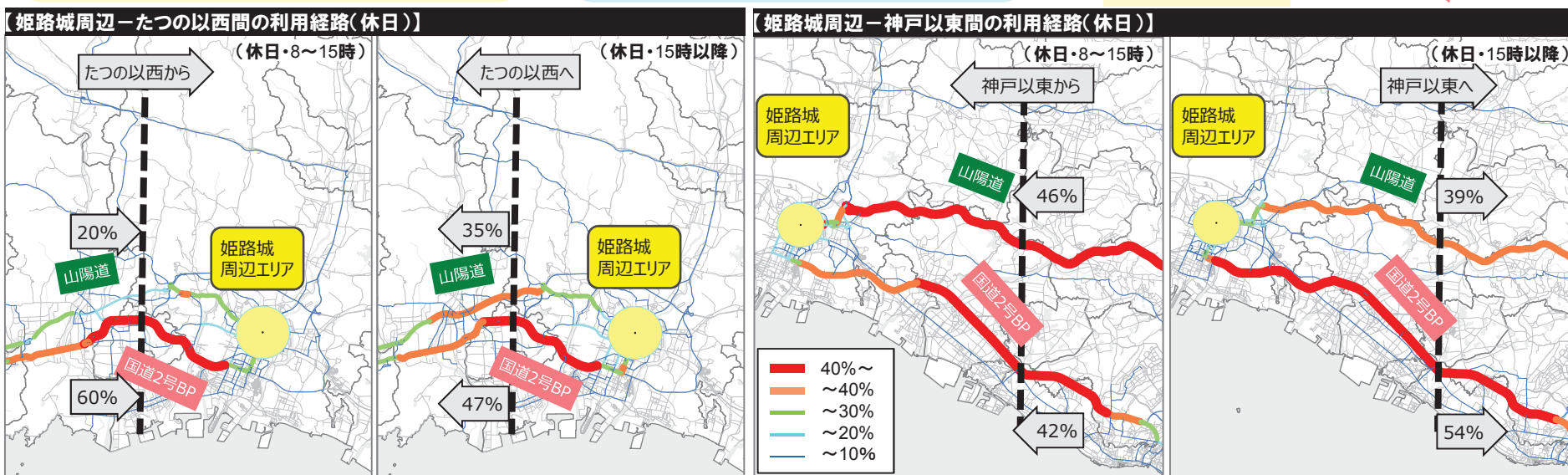
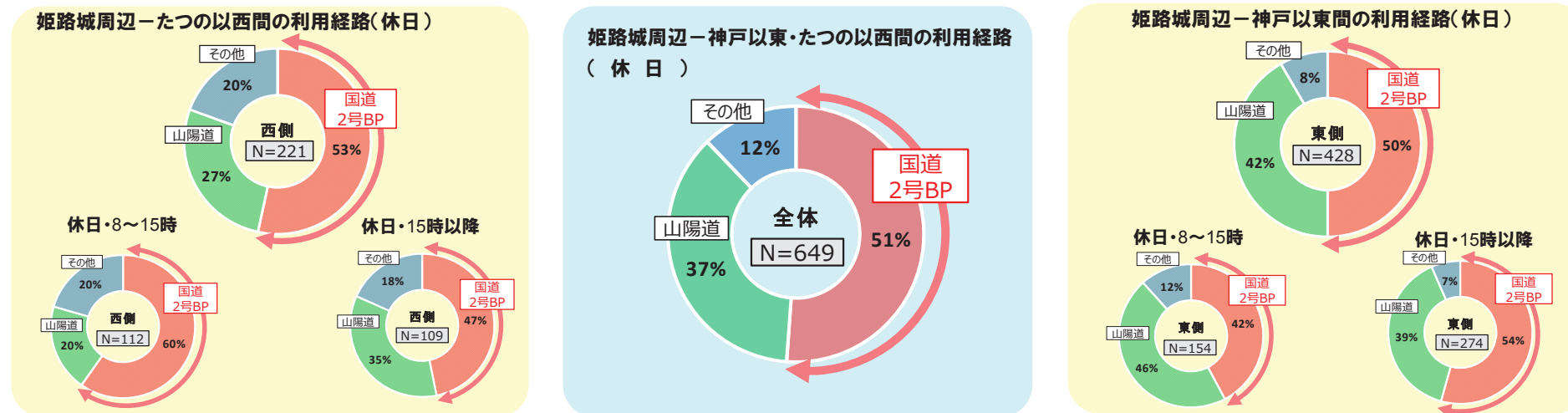
地域や道路交通の現状と課題（道路交通の特徴）

- 国道2号BPは、長・短距離交通が混在し、神戸・大阪、岡山方面などの**播磨地域外への交通が多い**
- 播磨地域外への交通は**臨海部に長距離交通エリアが広がり**、臨海部からの交通は南北道路、国道2号BPを經由
- 国道2号BPへのアクセス道路である南北道路、国道2号BPの渋滞により、**臨海部から発生する長距離交通の速達性・定時性が確保できていない**
- 慢性的な渋滞は、**材料入荷遅れ等の生産活動への影響、物流コスト増加による競争力低下等、民間投資へ大きく影響**



地域や道路交通の現状と課題 (観光移動の特徴)

- 播磨地域を代表する観光地の一つである世界文化遺産姫路城周辺エリアへの自動車利用の経路を調査
- 姫路城周辺エリアとたつの以西間、姫路城周辺エリアと神戸以东間の交通のうち、国道2号BP利用交通はともに約5割であり、**国道2号BPを利用する播磨地域外の東西交通は全体の約5割を占める**
- 観光分野においても国道2号BPは重要な役割を担っている



地域や道路交通の現状と課題（観光周遊）

- 兵庫県では、外国人旅行者が多く訪れる県内観光地「神戸」、「姫路」、「城崎」をつなぐ県内周遊ルート「ひょうごゴールデンルート」として設定・提案し、兵庫のインバウンド観光ブランド力の向上を図り、誘客を促進することを目指している
- 神戸は、異人館や旧居留地の町並み、中華街や神戸ビーフに代表される食。姫路は世界文化遺産の姫路城。城崎は外国人宿泊者数が急増している城崎温泉。それぞれ特色の異なる観光地をつなぐことで観光の活性化を推進している
- しかし、国道2号BPの渋滞により、定時性・速達性が確保されていないため、播磨地域の観光地の魅力低下や広域観光周遊が進まないなど、観光業に影響を及ぼす

← 当面、都市計画・アクセスを進める区間



※掲載写真は、下記より転載
姫路市HP 姫路フォトバンク

ひょうごゴールデンルート



※掲載写真は、下記より転載
豊岡市HP 豊岡市フォトライブラリー

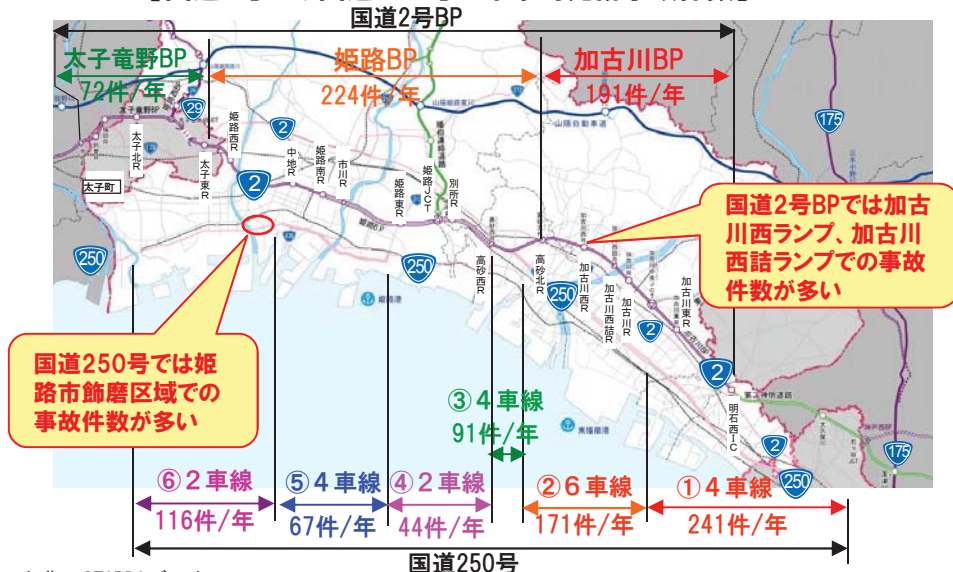


※掲載写真は、下記より転載
神戸市HP 神戸フォトコレクション

地域や道路交通の現状と課題（事故）

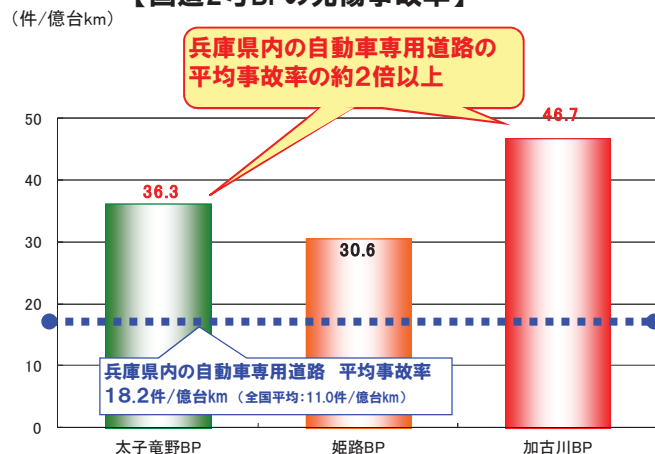
- 国道2号BP、国道250号ともに、**兵庫県内平均の約2倍以上の死傷事故率**
- 国道2号BPでは**加古川西ランプおよび加古川西詰ランプ**、国道250号では**姫路市飾磨区域**で**事故件数が多い**
- 国道2号BPの事故要因は、速度低下が原因の一つと考えられる**追突事故**が8割以上

【国道2号BP、国道250号の年平均死傷事故件数】

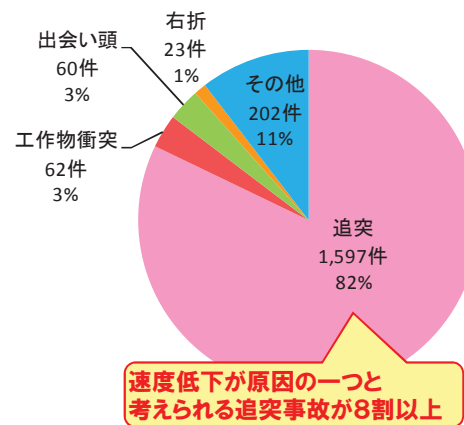


出典：ITARDAデータ
※事故件数は、H23年～H26年の年平均

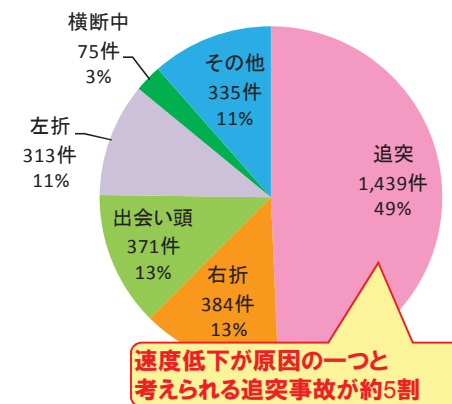
【国道2号BPの死傷事故率】



【国道2号BPの事故類型】

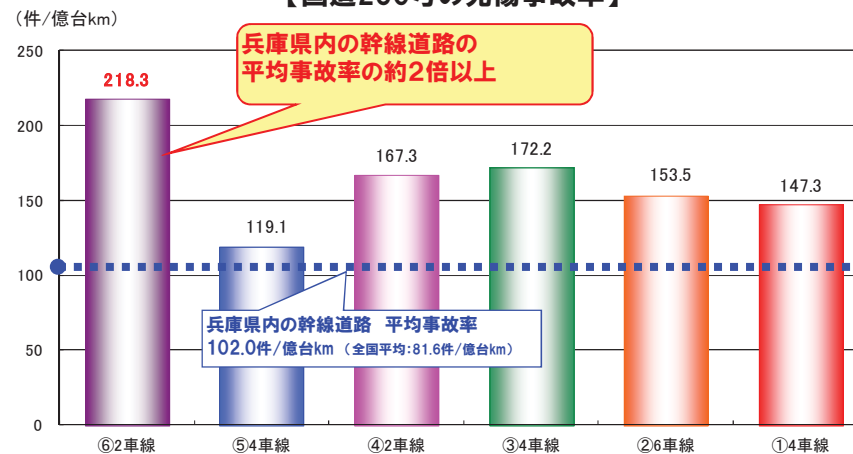


【国道250号の事故類型】



出典：ITARDAデータ (H23～H26の4年間合計)

【国道250号の死傷事故率】



地域や道路交通の現状と課題（浸水・液状化）

- 洪水及び南海トラフ巨大地震に伴う津波により、一部の主要幹線道路で浸水による通行止めが懸念
- 播磨地域の臨海部には、液状化危険度が極めて高い範囲が広く分布



PL値(液状化指数) : 地盤の液状化の激しさの程度を表す指標。液状化の発生する深さや層厚、非液状化層の厚さが勘案されており、液状化危険度マップの作成にあたって使われることが多い。「液状化対策技術検討会議」検討成果 (H23.8 国土交通省 液状化対策技術検討会議)

地域・道路交通の課題整理

地域・道路の課題

○東西方向の主要幹線道路である国道2号BPの交通容量が不足

○H12の太子竜野BP、姫路BP無料化により山陽道から交通転換し、渋滞が悪化

○産業交通の混入により、臨海部から国道2号BPへアクセスするための南北道路が渋滞

○臨海部の製造業の投資促進に向け、交通機能強化が必要

○臨海部を発着する交通は長距離交通が多く、主に国道2号BPにより阪神方面へ移動

○世界遺産姫路城を有し、観光消費額ベースで県全体の約2割

○姫路城への連絡経路の約5割が国道2号BPを経由

○兵庫県が神戸・姫路・城崎の「ひょうごゴールデンルート」を設定し、インバウンド観光誘客を促進

○国道2号BP、国道250号明姫幹線の死傷事故率が県内平均の2倍以上

○津波浸水や洪水浸水が懸念

○臨海部の埋立地を中心に液状化が懸念

早期整備

必要機能の確保

製造業の活性化、投資促進

観光周遊の促進

交通事故の削減

災害に強いまちづくり

政策目標の設定

■政策目標・留意事項の設定

- 地域・道路交通の現状と課題、地域の将来像、アンケート・ヒアリング結果を踏まえ、政策目標を4つ、留意事項を2つ設定

地域の現状と課題

道路交通の現状と課題

地域の将来像

アンケート・ヒアリング

政策目標

製造業の活性化、投資促進	臨海部から阪神方面への連絡時間の短縮
	南北道路における生活交通との混在による渋滞の回避
観光周遊の促進	産業交通の排除による国道2号BPの観光交通の速達性、定時性の向上
交通事故の削減	国道2号BPにおける渋滞解消による追突事故の削減
	南北道路からの産業交通の排除による事故の削減
災害に強いまちづくり	災害時に機能するネットワークの確保

留意事項

早期整備	課題の大きさを踏まえた対策
	民間投資のスピード感への対応
必要機能の確保	新しい道路に国道2号BPの渋滞が転換するだけにならない仕組みづくり

■今後の検討内容

- 地域の課題解決に向けた幹線道路の役割を把握し、政策目標の妥当性を確認するため意見聴取を実施